本時のねらい　将来就きたい職業とその理由を伝え合う活動を通して，職業の名前と理由を尋ねたり伝えたりする表現に慣れ親しみ，自分の言いたいことを伝えたり，仲間の言うことを理解したりしながら積極的にコミュニケーションを図ろうとする。

本時の展開（４／４）

過程	学 習 活 動
導入	1. Warm-up チャンツ♪When I Grow Up 2. Activity (評価の観点ア＆イ) (1)指導者によるスキットを見て，課題をつかむ。 （発表者）A: Hello. I want to be a pianist. Because I like piano and I can play the piano very v Thank you. （視聴者）B: What do you want to be? Me, too. / Wow! Great! / I know. Good luck! ・スキットを視聴して，将来就きたい職業と理由をスピーチして，仲間と伝え合う活動であることが分かる。
課題	将来就きたい職業と理由を伝え合おう！
展開	(2)課題に向かって，まず，やってみようとする。 ・スピーチに必要な絵や写真等を活用したりジェスチャーを交えたりしながらスピーチする。 (3)中間交流会 ・発表者として，ジェスチャーを交えながら言いたいことを伝えることができていた姿を価値付ける。 ・視聴者として，発表者のスピーチに反応しながらスピーチの内容を理解しようとしていたか振り返る。そして，仲間のスピーチを視聴しながら反応したり問いかけたりすることを再確認して後半の活動に臨む。
評価	3. Evaluation (1)自己評価 ・今まで知らなかったみんなの夢が分かったし，自分も自信をもってスピーチすることができたから嬉しかった。 (2)相互評価 ・○○さんの将来就きたい職業が，自分と同じでびっくりした。同じ夢をもって，中学校でも一緒に頑張っていきたい。 ・○○さんは，自分の夢を伝えようとして，こんなふうにジェスチャーを交えながらやっていたから理由がよく分かった。 (3)指導者による評価 ・仲間のスピーチを聞いて，『英語ノート』にメモを取ることができたね。発表会が終わって嬉しかったのは，仲間の言うことを理解しようと反応しながら聞いたり，ジェスチャーを交えながら自分の言いたいことを伝えたりすることができたからだね。 ・素敵な夢をもって，仲間と一緒に中学校へ進めるね。

◇本時の重点とする評価の観点と評価方法

ア　コミュニケーションに対する関心・意欲・態度
自分の言いたいことを伝えたり仲間の言うことを理解したりしながら積極的にコミュニケーションしようとしている。(観察)

イ　外国語への慣れ親しみ
職業の名前を表す語彙や理由を尋ねたり伝えたりする表現に慣れ親しんでいる。(観察･英語ノート)

各過程における配慮事項

学習活動2　について

スピーチの時間をとるために ALT’s Time は行わない。

教師の示すスキットでは，第2時から慣れ親しんできた職業の特徴や理由を表す語彙や表現を扱ったり，補助の絵や実物を用いたりする。

活動は，学級の実態に応じて，「グループ内で」「全員の前で」等，発表形態を決める。また，発表者が理由を語る前に，指導者や視聴者が，“Why?”と問いかけながら工夫ある活動にすることができる。

発表者の話を聞く際，指導者は，スピーチ内容を理解することが難しい児童と一緒に活動したり，児童の活動状況を記録したりする。また，視聴者は，英語ノート(P.61)にメモしながら聞く。

中間交流会では，前半の発表者の姿のよさをねらいに即して価値付ける。視聴者は仲間のスピーチを視聴しながら，どんな声をかけたり反応したりすると互いに伝え合うことができるのか，課題を再度確認し合い後半の活動に臨む。

学習活動3　について

自己評価では，“Do you have any comments?”等と問いかけることで児童が活動の達成具合等を語れるようにする。児童が語ったことを基に指導者は「本時のねらい」に沿って，児童の姿を具体的に価値付ける。

相互評価では，仲間がスピーチしているようにやってみたら自分もできたという達成感が抱けるように，また，児童一人一人の夢を学級みんなで大切に聞き，互いの成長を認め合うことができるように，児童が語ったことに問い返しながら学び合ったことを深めたり価値付けたりする。

☆中学校へつなげるポイント

場面に応じた表現を選んで使ったり，まとまった英語を聞いてその概要を理解したりしながら積極的にスピーチし合おうとする姿を目指す。

将来の夢をもち中学校へ羽ばたこうとしている児童一人一人のスピーチの様子や仲間の成長を認め合う交流の様子をビデオレターとして作成し，中学校との交流等で活用できるようにしてもよい。